# 島根3選挙区 自民が独占

自民党が小選挙区独占―。小選挙区比例代表並立制の下で次期政権の在り方を問う第四十一回衆議院選挙は二十日、全国一斉に投開票を行い、島根県は3選挙区とも午後八時半すぎに当落が判明、自民党が完勝した。1区は細田博之氏（自民、前）が、新党で四選を目指した石橋大吉氏（民主、前）を振り切って当選。2区は竹下登氏（自民、前）が、錦織淳氏（さきがけ、前）の挑戦を退ける形で十四回目の当選を決めた。議席空白地帯になっていた石見部の3区は、亀井久興氏（自民、元）が、大橋弘昌氏（新進、新）、出島千鶴子氏（社民、新）に大差をつけて返り咲いた。全選挙区に候補を立てた共産党は1区の中林佳子氏（元）、新人の2区佐々木洋子氏（新）、3区平田守氏（新）がいずれも敗退。狭い地域内で当選者一人を選ぶ小選挙区選挙に移行し、全国的に組織力で勝る自民党が選挙戦を有利に運ぶという傾向を、島根県内でも実証する形になった。県平均投票率は、前回を六・八八ポイント下回る七五・六八%。選挙区の三分割、投票方法の変更という制度転換が有権者の戸惑いになって現れ、総選挙では戦後最も低い投票率となったが、それでも連続十回全国一となった。

比例区で当選した桜内義雄さん（中央）、皆美健夫後援会長㊧とともにバンザイをする細田博之さん㊨＝20日午後9時6分、松江市灘町の選挙事務所

## 1 区

### 細田氏、大差の勝利
### 石橋氏〝本庄風〟吹かず

1区では、細田博之氏が厚い保守地盤に乗り、確実に集票。前回参院選の得票率四〇・五七%を上回る五二・一二%を獲得し、前職同士の事実上の一騎打ちとみられた石橋大吉氏の追い込みをかわした。

当初、細田陣営は比例も含んだ自民三派相乗りの合同選対体制がうまく稼働するかどうか、という懸念材料があったが、終盤、系列での引き締めに動き、細田氏の基礎票に竹下、桜内二派の票を上乗せする形で集票。

大票田の松江市では、前回県議選で自民三派が取った四万票には届かなかったものの、きめ細かい動きで三万五千票を獲得。同県議選で自民候補が対立、しこりが懸念された隠岐もいち早く一本化し石橋氏に一万二千票差を付けるなど、自民の底力を見せ付けた。

石橋氏は「民意を反映しない本庄工区干陸反対」を前面に、古い政治風土の打破を目指した。しかし、八束郡では七千三票しか取れず、細田氏に八千三百票差を付けられる大敗。出身の安来市でも票が伸びなかった。選挙直前に社民党から民主党に移籍、新党の風も期待したが、実質は労組に頼る旧態依然とした組織選挙で、本庄を核にした幅広い浸透には至らなかった。

中林佳子氏は、大政党が有利になる小選挙区では当選は現実的ではないとみて、比例をにらんだ集票活動に終始。「有権者の二〇%の得票」には及ばなかったものの、前回票を五千票上回る二万一千四百票を獲得。「総保守化」の流れに歯止めを掛ける勢力として、一定の躍進を果たした。

## 2 区

### 竹下氏、組織力で快勝
### 錦織氏の挑戦退ける

2区では、保守地盤が県内でも最も厚い選挙区という地の利を生かした竹下登氏が、五四・四%の得票率で当選。事実上の一騎打ちを戦った錦織淳氏は、「新旧交代票」のすそ野を広げることができなかった。

竹下氏は出身地の雲南を中心に郡部で貯金を稼ぐ一方、運動の重点を終盤から出雲市に絞り、党内結束の点で不安要素を抱えながらも安定票を獲得。前回、自民四候補が中選挙区選挙で得た合計得票の八四・六%を維持、錦織氏に約二万三千七百票差の八万六千四百六十二票で十四期目を飾った。

選挙戦は、各代議士系列の後援会組織に支えられたほか、関係首長の全面バックアップ体制で、終始優勢に展開。竹下氏本人も一日二十カ所の路地裏演説で「親近感」を強調、首相経験者の「実績と影響力」で自民期待票を確実に集めた。

後援会組織の未整備と出遅れが響いた錦織氏は六万二千七百九十票。反竹下票の掘り起こしに期待をかけた出雲市、「地元から再び」を訴えた出身地の平田市で思惑通りの大幅な上積みが図れず、接戦ラインまで持ち込めなかった。

今回は、民主党系の労組や漁業関係者など、前回戦にはない実働部隊を味方に付けた戦い。が、組織力で圧倒的な違いを見せる対立候補の壁は厚く、ビラ戦術による「政治路線の転換」が広く行き渡らないまま投票日を迎えてしまった。

佐々木洋子氏は比例票に軸足を置いた戦いで九千八百二十二票。一貫した政策で党の独自色を浸透させようとしたが、前回戦の得票実績には手が届かなかった。

## 3 区

### 亀井氏返り咲く
### 新人3氏寄せつけず

前回二千票余りの差で次点に甘んじた亀井氏が、厚い自民地盤の中、竹下、桜内、細田支持票もがっちりまとめて見事に返り咲いた。選挙期間中は個人演説会を中心に、有権者に直接語り掛ける戦術で幅広い支持者の取り込みに成功。午後八時二十分すぎには、大橋氏に四千票近くの差をつけ、早々と当選を確実にした。十万票を越えるといわれる自民票だが、郡部を手堅くまとめ、食い合いになった市部でも目減りを最小限にとどめた。

新進党新人で三十歳の大橋氏は、若さに加えて故・大橋武夫の孫という血筋をバックに「石見に新風を」と訴えた。公明、友愛会議の推薦を柱に、先行の亀井氏を追い上げたが、党組織の弱さと出遅れが響いた。八月の出馬表明以降、四市の市街地を中心に一万軒訪問戦術を展開。公示後は消費税などで亀井氏との対決姿勢を鮮明にして若者や主婦などの無党派層に食い込んだ。しかし、自民の結束の壁を思うように切り崩せず涙をのんだ。

社民党で県内初の女性候補、出島氏は党分裂のハンディが痛かった。「石見で生まれ育った女性を国政に」と訴えて支持拡大を図ったが、分裂によって従来の支持基盤の〝迷走〟が最後まで影響した。

共産党新人の平田氏は、「唯一の革新」をアピール。が、政治不信による全国的な党の上げ潮ムードに乗り切れなかった。

## 〝保守王国〟色 一段と鮮明に

＜解説＞

県内の全小選挙区で自民党が議席を独占、〝保守王国〟という政界地図の色を一段と鮮明にする選挙結果になった。

### ○…1 区…○
### 地域振興票上回る

本庄工区問題が争点の一つだった1区は、得票結果で見る限り、細田氏の「土地活用による地域振興」が、石橋氏や中林氏の「干陸阻止」を上回った。が、この結果が干拓の是非を問う住民投票的な意義付けを持ったかは別問題だ。それぞれの得票が、すべて本庄問題を判断基準にした一票かどうか、疑問が残るからだ。

選挙戦で自民党側は、干陸反対派が言う「堤防の試行的開削」を「生活道路の破壊行為」と批判。細田氏と石橋氏との間でも、干陸の是非という点で論争がかみ合わず、石橋氏が力説した「国政の在り方を問う争点」にはならなかった。むしろ、別の視点から「地域振興に及ぼす自民の影響力」を前面に出した細田氏の訴えが保守票を刺激するなど、地域代表を選ぶ選挙の側面が色濃くなった。

中林氏は「唯一の野党」として干陸反対の一部や反消費税の票を取り込み、前回より票を伸ばした。

### ○…2 区…○
### 「変革」より「安定」

2区での竹下氏の勝利は、有権者が「変革」より「安定」を求めた結果と言える。

過疎化や高齢化など深刻な問題を抱える地方の将来に対する不安はより切実。そんな有権者の意識をくすぐるように、竹下氏は施策実現に必要な「経験」や「人脈」を強調した。直面する課題の大きさが「実績と力」を背景にした元首相の持つ安定感を選ばせた。

錦織氏は前回選挙で、組織を持たずに当選、保守風土に風穴を開けたかに見えた。が、有権者の意識が安定思考に働き、活路を求めた「新旧交代」の図式も浸透しきれなかった。

また、次々と誕生した新党のとん挫ぶりもマイナス要素。前回の新党ブームで「変革」に傾きかけた有権者の心の振り子を、一気に引き付けることができず、むしろ「政治の安定」を選択させる要因になった。

佐々木氏は二人の激しい戦いの間で埋没する格好となった。

### ○…3 区…○
### 石見地域代表選に

3区は、四候補がしのぎを削る戦いとなったが、自民党の結束で亀井氏が終始優位に戦い、返り咲いた。

過疎と高齢化が深刻な石見だけに各候補とも「石見の再生」を取り上げ、「地域代表選」が色濃い選挙戦に。立ち上がりが早かった亀井氏は、自身の支持基盤の薄さを足でカバー。厚い自民支持地盤を固めた。

大橋氏は公明や民社、友愛会議などの推薦を得る一方、若さと将来性を前面に出して「自民との対決色」を鮮明にする作戦だったが、空回りした格好。出島氏は社民党分裂による逆風が、最後まで大きく立ちはだかった。県自治労の構成単組が〝ねじれ現象〟を起こし、票がばらけたのも痛かった。平田氏は、党の政策を積極的に訴えたが、波に乗れなかった。

## 1区 石破氏、2区 相沢氏

鳥取選挙区

鳥取1区は無所属前職の石破茂氏（三九）、2区は自民党前職相沢英之氏（七七）が当選した。

自民、新進の二大政党候補者がいない選挙区となった1区は、石破氏が政治改革の追い風で記録的な得票をした前回の1区地区獲得票（八万二千六百十八票）を上回る九万四千票余りを獲得し、知久馬氏ら新人三氏に六万五千万票以上の大差をつけ、四選を果たした。

野坂浩賢社会党副党首の引退で旧社会党系候補不在の2区は、相沢氏と新進党新人の山内功氏の新旧対決で接戦となったが、相沢氏が約五千票差で逃げきり、八選を果たした。

知久馬氏の落選で旧社会党は五五年体制以来、県内選挙区で維持してきた国会議員の議席を失った。

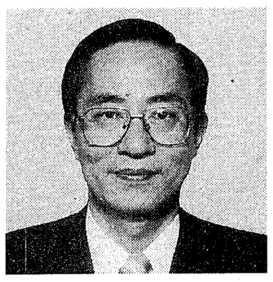
投票率は1区が六五・七八%、2区が六九・三五%で、全県一区だった前回（平成五年七月）県平均よりそれぞれ七・九二ポイント、四・三五ポイント下回り、過去最低を記録した。

### 鳥取県・選挙区開票結果

（選管最終）

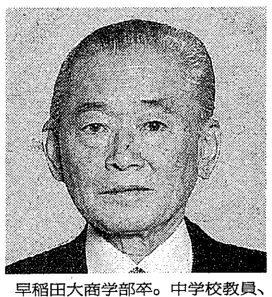
| 区 | 得票 | 氏名 | 年齢 | 党派 |
|---|---|---|---|---|
| 1区 | 当94,147票 | 石破　茂 | 39 | 無前 |
| | 28,496票 | 知久馬二三子 | 59 | 社新 |
| | 14,845票 | 岩永　尚之 | 39 | 共新 |
| | 13,221票 | 山田　篤 | 57 | 会新 |
| 2区 | 当69,256票 | 相沢　英之 | 77 | 自前 |
| | 64,199票 | 山内　功 | 42 | 進新 |
| | 15,665票 | 長尾　達也 | 65 | 共新 |

## 島根・選挙区当選者



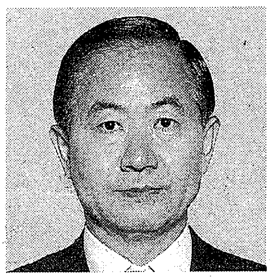
**1区 細田 博之氏**

東京大学法学部卒。通産省に入り石油公団ワシントン事務所長、同省物価対策課長などを歴任。同61年に細田吉蔵元衆院議員の秘書に。2年に衆院初当選。経済企画政務次官、運輸委員会理事などを務めた。当選3回。松江市堂形町738。



**2区 竹下 登氏**

早稲田大商学部卒。中学校教員、県議などを経て昭和33年に初当選。内閣官房長官、建設相、大蔵相、党幹事長を歴任。62年11月から平成元年6月まで首相。日韓議連会長、地球環境賢人会議長。当選14回。東京都世田谷区代沢3―17―10。



**3区 亀井 久興氏**

学習院大学政経学部卒。日本郵船勤務の後、衆院議員秘書を経て、昭和49年参院選に初当選。2期12年務める。平成2年衆院選に初当選。参院商工委員長、衆院逓信委員長などを歴任。当選参院2回、衆院2回。津和野町中座イ906。

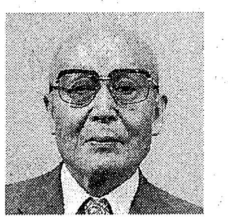
### 島根県・選挙区開票結果

（選管最終）

| 区 | 得票 | 氏名 | 年齢 | 党派 |
|---|---|---|---|---|
| 1区 | 当73,907票 | 細田　博之 | 52 | 自前 |
| | 46,481票 | 石橋　大吉 | 64 | 民前 |
| | 21,416票 | 中林　佳子 | 50 | 共元 |
| 2区 | 当86,462票 | 竹下　登 | 72 | 自前 |
| | 62,790票 | 錦織　淳 | 51 | さ前 |
| | 9,822票 | 佐々木洋子 | 45 | 共新 |
| 3区 | 当82,526票 | 亀井　久興 | 56 | 自元 |
| | 30,313票 | 大橋　弘昌 | 30 | 進新 |
| | 19,399票 | 出島千鶴子 | 52 | 社新 |
| | 9,641票 | 平田　守 | 46 | 共新 |

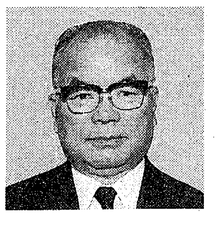
## 比例

### 桜内、石橋両氏が当選



**桜内 義雄氏**

慶応大学経済学部卒。通産（2回）、農林、建設、外務の各大臣、党政調会長（2回）、党幹事長を歴任。元衆院議長。全国山村振興連盟理事、体力づくり国民会議議長などを務める。当選18回、参院当選1回。東京都港区東麻布2―17―11。



**石橋 大吉氏**

安来第二中学校卒。安来市役所から自治労中央本部執行委員、同県本部執行委員長、県評議長などを歴任。衆院農林水産委員、社民党で農水部会長などを務めた。現在、島根地方自治研究センター理事長。当選4回。松江市南平台26―20。

定数一三の比例中国ブロックは、自民が順調に得票を伸ばし六議席、新進は三議席、民主は二議席を獲得。社民、共産は一議席をそれぞれ確保した。

山陰両県関係では、自民は比例代表単独で名簿二位に登載された桜内義雄元衆院議長と、同五位の平林鴻三氏は早々と当選が決まった。小選挙区島根1区との重複立候補で民主の名簿1位（並立）の石橋大吉氏は惜敗率（六二・八%）で復活を果たした。共産で名簿2位の中林佳子氏は党の獲得議席数で届かなかった。

このうち、桜内氏は松江市灘町の事務所で支援者たちに囲まれて万歳。「小選挙区も合わせて島根で自民党が完勝したことが一番うれしい。私は、初めから比例区へ行く運命を覚悟した。今後は、ブロック代表として守備範囲が広くなるが、島根の代表であることに変わりはない」などと喜びを語った。

石橋氏の松江市嫁島町の事務所は、二十一日午前零時半ごろ、比例での当選が決まると、小選挙区の暗から一転、歓喜の渦に包まれた。

また、新人で社民の名簿順位1位（並列）の出島千鶴子氏（3区と重複）と、同じくさきがけの藤田正也氏（単独）は涙をのんだ。

### 比例代表中国ブロック確当状況

（定数13、21日午前2時現在）

| 印 | 順位 | 氏名 | 小選挙区 | 前元新・惜敗率 |
|---|---|---|---|---|
| 【自民党】（27―6） | | | | |
| 当 | 1 | 能勢　和子 | | 新 |
| 当 | 2 | 桜内　義雄 | | 前 |
| 当 | 3 | 林　義郎 | | 前 |
| 当 | 4 | 谷川　和穂 | | 前 |
| 当 | 5 | 平林　鴻三 | | 前 |
| 当 | 6 | 桧田　仁 | 広島2 | 新89 |
| | 24 | 平野　耕平 | | 新 |
| | 25 | 松尾　洋治 | | 新 |
| | 26 | 芳賀　耕輔 | | 新 |
| | 27 | 鈴木　匡信 | | 新 |
| ○ | 6 | 河井　克行 | 広島3 | 新 |
| ○○ | // | 亀井　久興 | 島根3 | 元 |
| ○○ | // | 逢沢　一郎 | 岡山1 | 前 |
| ○○ | // | 相沢　英之 | 鳥取2 | 前 |
| ○○ | // | 安倍　晋三 | 山口4 | 前 |
| ○○ | // | 池田　行彦 | 広島5 | 前 |
| ○○ | // | 河村　建夫 | 山口3 | 前 |
| ○○ | // | 岸田　文雄 | 広島1 | 前 |
| ○○ | // | 熊代　昭彦 | 岡山2 | 前 |
| ○○ | // | 高村　正彦 | 山口1 | 前 |
| ○○ | // | 佐藤　信二 | 山口2 | 前 |
| ○○ | // | 竹下　登 | 島根2 | 前 |
| ○○ | // | 中川　秀直 | 広島4 | 前 |
| ○○ | // | 平沼　赳夫 | 岡山3 | 前 |
| ○○ | // | 細田　博之 | 島根1 | 前 |
| ○○ | // | 宮沢　喜一 | 広島7 | 前 |
| ○○ | // | 村田　吉隆 | 岡山5 | 前 |
| 【新進党】（6―3） | | | | |
| 当 | 1 | 斉藤　鉄夫 | | 前 |
| 当 | 2 | 桝屋　敬悟 | | 前 |
| 当 | 3 | 加藤　六月 | 岡山4 | 前37 |
| | 4 | 貝沼　次郎 | | 前 |
| | 5 | 森脇みのる | | 新 |
| | 6 | 渡辺　卓也 | | 新 |
| 【民主党】（6―2） | | | | |
| 当 | 1 | 石橋　大吉 | 島根1 | 前62 |
| 確 | // | 中桐　伸五 | 岡山2△ | 新58 |
| | // | 森井　忠良 | 広島5 | 前43 |
| | // | 山田　健一 | 山口2 | 新41 |
| | // | 木口　京子 | 岡山5 | 新33 |
| | // | 堀間　禎子 | 広島1 | 新15 |
| 【社会民主党】（5―1） | | | | |
| 当 | 1 | 秋葉　忠利 | 広島2 | 前70 |
| | // | 知久馬二三子 | 鳥取1 | 新30 |
| | // | 片山　春子 | 広島3 | 新24 |
| | // | 出島千鶴子 | 島根3 | 新23 |
| | // | 松坂　知恒 | 広島1 | 新19 |
| 【共産党】（3―1） | | | | |
| 当 | 1 | 正森　成二 | | 前 |
| | 2 | 中林　佳子 | 島根1 | 元28 |
| | 3 | 林　洋武 | 山口1 | 新31 |
| 【新党さきがけ】（1―0） | | | | |
| | 1 | 藤田　正也 | | 新 |
| 【新社会党】（7―0） | | | | |
| | 1 | 小森　竜邦 | 広島6 | 前23 |
| | 2 | 秋光　民恵 | 広島4 | 新28 |
| | // | 辻駒　啓三 | 広島3 | 新28 |
| | // | 高橋　晋作 | 広島7 | 新22 |
| | // | 山田　篤 | 鳥取1 | 新14 |
| | // | 信井　裕子 | 広島1 | 新09 |
| | // | 吉川　肇造 | 山口2 | 新03 |

【注】政党名の右の丸カッコ内は立候補者数、累計当選確実・当選者数（重複者の小選挙区での当選確実・当選は除く）。確は当選確実、当は当選、登載順、氏名、重複者は小選挙区名、比例単独は空白、△印は小選挙区が開票中のもの、前元新別、惜敗率（同一順位内の並べ順はその時点での惜敗率順とした）。重複者で既に小選挙区での当選あるいは当選確実となった候補には○印を登載順の上に付け、氏名、小選挙区名、前元新別の順。惜敗率の欄は空白。